

事業コード	H20-建-継-10		区 分	国庫補助 県単独
事業名	国道道路改築費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2492
路線名等	一般国道103号		担当課長名	小嶋 宣英
箇所名	大館市 葛原		担当者名	主幹(兼)班長 遠田 久雄
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	03	施策名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県管理国道改良率

## 1. 事業の概要

事業期間	H11 ~ H31 (21年)		総事業費	55.0億円	国庫補助率	5.5/10
事業規模	延長L=5,460m 幅員W=6.5(12.0)m (2.5+1.5+3.25+3.25+1.5)					
事業の立案に至る背景	<p>本路線は青森県青森市を起点とし、秋田県大館市に至る延長117kmの幹線道路であり、秋田県と青森市の県境にある国立公園十和田湖を經由地とする観光道路であるとともに、秋田県北部の中心である大館市と鹿角市を結び、地域の産業・経済の交流を図る重要な路線である。</p> <p>沢尻地区は人家連坦地域であるが幅員が狭く、歩道等の設置が無いことから地域住民の安全が確保されていない状況である。</p> <p>また、さらに冬期間は堆雪により大型車の交差が不能になることもあり、早急な対応が必要である。</p>					
事業目的	<p>当該区間の整備をすることにより、安全かつ円滑な交通の確保がなされ、十和田八幡平国立公園などの優良な観光資源を生かした産業、経済、文化などの多目的にわたる県北地域の活性化が期待される。</p> <p>道路の防災対策・危機管理の充実(第1次緊急輸送道路)。</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		7,000,000	5,500,000	-1,500,000	
	経費内訳	工事費	4,972,323	3,827,975	-1,144,348	土工、橋梁工、排水工等の見直
		用補費	1,233,807	1,038,541	-195,266	不動産鑑定や建物調査による減
		その他	793,870	633,484	-160,386	事業費減による事務費の低減等
	財源内訳	国庫補助	3,850,000	3,025,000	-825,000	
		県債	1,417,000	1,113,000	-304,000	
その他		0	0	0		
一般財源		1,733,000	1,362,000	-371,000		
事業内容		調査・設計、改良工、橋梁工、舗装工	調査・設計、改良工、橋梁工、舗装工			
事業の進捗状況	<p>全体進捗率約46%(H19年度末)であり、平成20年3月には葛原地区内の0.7kmを供用した。今年度は、河川工事との事業調整を行い河川発生土を本体盛土工に流用し、コスト縮減を図っている。</p>					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	あきた21総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業。					
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年6月20日、旧大館市・田代町・比内町が合併し、大館市となった。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県管理国道改良率				
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	91.4 %		データ等の出典	道路現況調査	
	実績値 b	92.7 %				
達成率 b/a	101.4 %		把握の時期	平成20年4月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	第1次緊急輸送路であり、他に機能が競合する路線は存在しない。 当該区間は「道路構造上の欠陥箇所数」が2箇所 ( Rmin=80m、i max=6%)あり、堆雪幅がなく歩道もない。また、通学路指定地域であり早急な改良が必要である。 事故率は71件/億台kmと高くなっている。	12点
緊 急 性	本路線は、県の主要プロジェクトである「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」の計画路線である。 現況交通量の増加。(H11 8,192台/日 H17 8,492台/日) 沢尻地区の現道はJR花輪線と隣接し、特に冬季は日陰となり路面凍結が発生し、たびたびスリップ事故が発生している。	5点
有 効 性	緊急輸送道路の指定路線であり、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。 当該区間は近隣に位置する十和田湖・大湯温泉・大滝温泉等へのアクセス道路として、地域振興を支えている。	30点
効 率 性	事業の費用便益比は、1.5である。 計画交通量は、7,000台/日(H42)となっている。	20点
熟 度	平成19年度末の事業進捗率は46%となっている。(用地進捗率97%)	15点
判 定	ランク ( ) 「有効性」が特に高い点数となっており、県の「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」として位置づけられており、整備後の有効性も高いことから引き続き実施すべきである。	82点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止	
	事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H20-建-継-10 )

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (大館市 葛原 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	・車道幅員 < 5.5 m	3箇所以上	8	8	2次改築事業については該当しない。
	・最小半径 < 100 m	2箇所	5		
	・最急勾配 > 5 %	1箇所	3		
	・冬期堆雪巾なし	0箇所	0		
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7		
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6	4	2次改築は配点15点 2次改築は配点12点 2次改築は配点10点 2次改築は配点8点 2次改築は配点4点
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
	・通学路指定で歩道なし	1件該当	2		
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無				
	・県の主要プロジェクト	あり	5	5	
	・地域振興プロジェクト	なし	0		
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	0	
	位置づけなし	0			
特有の課題の有無	あり	5	0		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	5	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路				
	第1次輸送路	あり	10	10	
	第2次輸送路	あり	8		
	第3次輸送路	あり	6		
	指定なし	なし	0		
県内90分交通体系、全国1日交通圏等に	あり	10	10		
	なし	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	30	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)				
	1.0以上	5	5		
	1.0未満	0			
	計画交通量			5	
	5,000台/日以上	5			
1,000台/日以上?5,000台日/未満	3				
コスト縮減			5		
あり	5				
なし	0				
事業中止による影響					
既投資額の損失大	5	5	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅		
既投資額の部分的損失	4				
既投資額の損失が少ない	3				
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)				
	8割以上完了	10	5		
	5割以上完了	8			
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
用地買収の進捗(面積)			10		
8割以上完了	10				
5割以上完了	8				
1割以上完了	5				
1割未満	2				
未着手	0				
計			20	15	
合計			100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		